

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-12448
(P2008-12448A)

(43) 公開日 平成20年1月24日(2008.1.24)

(51) Int. Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 0 5 D 7 / 2 4 (2006.01)	B 0 5 D 7 / 2 4 3 0 3 F	4 D 0 7 5

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 18 頁)

(21) 出願番号	特願2006-186898 (P2006-186898)	(71) 出願人	599073917 財団法人かがわ産業支援財団 香川県高松市林町2217番地15
(22) 出願日	平成18年7月6日(2006.7.6)	(74) 代理人	100102314 弁理士 須藤 阿佐子
		(74) 代理人	100123984 弁理士 須藤 晃伸
		(72) 発明者	湯 衝平 香川県高松市林町2217番地43号 財 団法人かがわ産業支援財団高温高压流体技 術研究所内
		(72) 発明者	黄 錦涛 香川県高松市林町2217番地43号 財 団法人かがわ産業支援財団高温高压流体技 術研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 微粒子膜の形成方法、その方法により得られたマイクロ電極と電子装置

(57) 【要約】

【課題】 有機溶媒を不使用ないしは殆ど使用することなく、常温の大気中で高い生産性をもって所望の 패턴の微粒子膜を製造できる塗布技術の提供。

【解決手段】 超臨界状態の二酸化炭素流体を用い常温常圧下で微粒子を塗布して被塗布物の表面上に微粒子膜を形成する方法であって、真空状態ないしは真空状態に近い状態とした高压容器に数十μm以下の微粒子である微粒子を注入し、超臨界状態の二酸化炭素流体を注入し、それらを攪拌して超臨界状態の二酸化炭素を分散媒体とする微粒子の高分散状態になった混合物とし、該混合物をノズルから被塗布物に噴射することで膜を形成する微粒子膜形成工程を有することを特徴とする方法。

前記混合物を被塗布物へ噴射するに際し、超臨界流体の圧力およびノズルと被塗布物の距離を制御することで数十ないし数千m/sの速度で微粒子を噴射することを特徴とする微粒子膜の形成方法。

【選択図】 図1

